説教要旨「み言葉は滅びない」

ルカによる福音書　２１章２９～３８節

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」（33 節）。人間の営みだけでなく、自然の営みさえも滅びる。そのような時が訪れても、決して滅びないものがある。この２１章に語られて来た“この世の終わり”についての教えは、この「わたしの言葉は滅びない」とのみ言葉で締めくくられています。

“この世の終わり”は、突然、全ての人々に襲ってきて、私たちが頼りにしていたこの世のものは、天と地とをも含めてすべて滅び、終ってしまうというのです。“この世の終わり”という出来事は、そのときにあっても滅びることの無い、イエス様の語られるみ言葉を信じることによってしか受け止めるすべはないのです。

続けてイエス様は、その日が不意に罠のように襲ってきて、この世と共に滅びてしまうようなことにならないように、「いつも目を覚まして祈りなさい」（36 節）。と勧めています。心が眠り込んでしまっている状態、それは、み言葉に対する鋭い感覚が失われて、み言葉に信頼するのでなく、この世の事柄、この時代を支配している力に目を奪われていくことです。この世の事柄には敏感に反応するのに、神様のみ言葉には全く反応できない。み言葉によって心を動かされることがなく、変えられることもない。私たちはそんな状態に陥ってはいないでしょうか。そうならないために必要なことは祈ることです。祈るというのは、神様のみ前に立ち、目の前におられる神様に向かって語りかけることです。

私たちは、祈りを忘れて毎日を過ごしてはいないでしょうか。日々の生活の中に祈るときを持つことによってこそ、今生きている日々の生活において、神様の前に立つことができるのです。目を覚まして祈り、いつも神様のみ前に立ちつつ生きることによってこそ私たちは、「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」というみ言葉に信頼し、苦しみの中にあっても身を起こし頭を上げ、イエス様の再臨による救いの完成を待ち望みつつ、忍耐して信仰の戦いを戦い抜いていくことができるのです。

（２０２０・１０・４　説教者：稲垣真実）